

1: 【The Black Note】第2話 絵の中の天使  
2:  
3: ■オープニング  
4:  
5: デュレモノローグ「光のあるところには、必ず影ができる。歴史もそれは同様で、表の歴史のすぐそばに、裏の歴史がいつも存在していた。けれどあの頃は、誰一人として、そんなことを考えて  
6: はいられないかった。その歴史が表か裏かなんて、そのときを生きているものにはなんの関わりもな  
7: いことなのだから……」  
8:  
9:  
10: ■タイトルコール  
11:  
12: デュレ「The Black Note第2話・『絵の中の天使』」  
13:  
14: ■本編  
15:  
16: ウィズ：は～、暇だなあ……。セレスたち、いつ戻ってくるんだろう。  
17: サスケ：そんなに早くは戻ってこないさ。あいつらには試練が待ってるんだから……。  
18: ウィズ：試練？  
19: サスケ：下手をしたら、命を落とすかもしれない。  
20: ウィズ：そんな……！ なんなんだよ、この遺跡って。いったい、これから何が起ころうとしてい  
21: るんだ？  
22: サスケ：まあ、そのうち……わかるさ。  
23: ウィズ：なあ、行っていてもいいか？  
24: サスケ：行ってくて？  
25: ウィズ：オレだけ留守番なんて、やっぱり納得いかない。  
26: サスケ：好奇心は身を滅ぼすぞ。  
27: ウィズ：何も知らずに終わるよりマシだ！  
28: サスケ：そうか……。そこまで言うなら仕方ない。ついて来い。  
29:  
30: SE：足音  
31:  
32: 久須那：さて、おしゃべりはその辺にしておいてもらおうか！  
33:  
34: SE：矢が地面に刺さる音  
35:  
36: セレス：きゃっ！  
37: デュレ：なんなんです！ 突然！  
38: シリア：来たか……。久須那。  
39: セレス：えっ！？ 久須那って……。だって、久須那は、絵の中に……。  
40: 久須那：そう、本物の私は絵の中だ。私は影――シルエットスキル！  
41: デュレ：シルエットスキルですって！  
42: セレス：デュレ、知ってるの？ シルエットスキルって、なんだっけ……。  
43: デュレ：あーもう、あなたは！ なんでそれで卒業できたのか！  
44: セレス：あたしは実技担当なのっ！ で、なんなのよ。シルエットスキルって。  
45: シリア：文字通り、本体の影さ。本体とほぼ同等の力を持つ、意思を持った魔力の塊――  
46: セレス：じゃあ、あれは、偽者ってこと？

47: 久須那：偽者とは心外だがな。おおむね、そのようなものだ。  
48: デュレ：でも、解せませんね。どうして、久須那のシルエットスキルが私達を襲うんです？ 理  
49: 由がありません。  
50: 久須那：お前たちをためさせてもらう。  
51: セレス：試す……。？  
52: 久須那：封印を解くのは、力を持ったものでなくてはならないからな。  
53:  
54: SE：シューアアアア、と魔法の効果音  
55:  
56: 久須那：役立たずに封印を解かせるわけにはいかない。  
57: セレス：あたしたちが役立たずかどうか、見せてやる！ デュレ、あたしが切り込むから援護お願  
58: い！  
59:  
60: SE：ちゃぎ、と短剣を構える音  
61:  
62: デュレ：話し合いの余地はなさそうですね……。わかりました。  
63:  
64: SE：護符を出す音  
65:  
66: 久須那：悪いな。時間が無い。  
67:  
68: SE：魔法の音  
69:  
70: 久須那：行かせてもらおう！  
71:  
72: SE：ガガガッ、と矢の地面に刺さる音  
73:  
74: セレス：うひゃあっ！ どんだけあるの、あの矢！  
75: デュレ：何を言ってるんです。あれがただの矢のはずがないでしょう？  
76: セレス：じゃあ、なんだっていうのよ！  
77: デュレ：あれは「イグニスの弓」――炎の魔力でできた弓です。魔力の続く限り、無限に矢がわい  
78: てきます。  
79: セレス：うっわあ、なんかズルいな！  
80:  
81: SE：地面を蹴る音  
82:  
83: セレス：でも、近づけばそんなの、関係ないっ！  
84:  
85: SE：剣同士がぶつかりあう音  
86:  
87: 久須那：甘いですね……。  
88: セレス：ええっ！？ なんで、どこから剣が出てきたの！？  
89:  
90: SE：剣同士がぶつかり合う音  
91:  
92: デュレ：言ったでしょう！ あれは炎の魔力のかたまりなんです。剣の形にだって、変われる！

08.07.29  
TBN02改.rtf

93: セレス：それを先に言ってよぉ！  
94: デュレ：聞かないあなたが悪いでしょう！ どいてっ！  
95:  
96: SE：しゅわっという音  
97:  
98: デュレ：ダークフレーム！  
99:  
100: SE：魔法を打ち出す音  
101:  
102: 久須那：ふふ……マジックシールド！  
103:  
104: SE：しゅん、と吸収音  
105:  
106: デュレ：なっ……吸収された！？  
107: 久須那：闇の魔法で私に対抗する気か？ 私はシルエットスキル——光と炎の高次魔法で作られた  
108: 存在。光は闇を打ち消すことができる！  
109: デュレ：私には分が悪いということですか……。  
110: セレス：でも、そんなときのためにあたしがいるんだよねっ！  
111:  
112: SE：ちゃきっ、と剣の音  
113:  
114: 久須那：ふっ！  
115:  
116: SE：剣を弾く音  
117:  
118: 久須那：気をそらせるとでも思ったか！？  
119: セレス：くっ……。  
120:  
121: SE：剣を交える音  
122:  
123: セレスモノローグ：あたしの持つてる短剣じゃ、リーチが足りない……！  
124:  
125: SE：近づく足音  
126:  
127: ウィズ：うひゃあ、とんだところに来ちゃったかな？  
128: デュレ：……ウィズ！  
129: シリア：あーあ、来るなって言ったのに……。  
130: サスケ：悪い、悪い。どーしてもコイツが、来たいというんで仕方なく。  
131: ウィズ：あ、なんだよその、オレが全部悪いみたいな言い方。確かに行きたいって言ったのはオレ  
132: だけど……。  
133: サスケ：まあ、そういうわけだ。  
134: シリア：そういうわけ、じゃないだろう？ 秘密を知る人間を無駄に増やしてどうする。  
135: サスケ：無駄に、ってわけじゃないと思うけどな。意外と役には立ちそうだけど。女の子二人じゃ、  
136: できないこともあるだろうし。  
137: シリア：それは、そうだが……いまさら試験に参加させるのもな……。  
138: 久須那：私は、それでもかまわない。

08.07.29  
TBN02改.rtf

139: セレス：そんなの、あたしが認めるもんか！ それじゃあまるで、あたしたち二人だけじゃ久須那  
140: にかなわないみたいじゃないか！  
141: ウィズ：ここで助太刀なんかしたら、セレスにやられそうだな。  
142: セレス：余計なことしたりしたら、ただじゃおかないんだから！  
143: ウィズ：ああ、わかったよ。でも、見たところ……オレの手助けも、少しはあったほうがよさそう  
144: だ。  
145: セレス：なんですって！？  
146: ウィズ：ほら。使えよ。  
147:  
148: SE：剣を差し出す音  
149:  
150: セレス：……これ……。ウィズの、剣？  
151: ウィズ：短剣じゃ厳しいだろ。  
152: セレス：何よ！ あたしは別に、こんなもの、貸して欲しくなんか……。  
153: ウィズ：あー、はいはい。いいからいいから。受け取れよ。  
154: セレス：……仕方ないわね。  
155:  
156: SE：ばっ、と剣を奪い取るように受け取る音  
157:  
158: デュレ：あらら、セレスったら、どうしたんです？ しおらしい顔なんかしちゃって。めずらしい  
159: ですね？  
160: セレス：う、うるさいっ！ なんでもないんだからっ！  
161:  
162: SE：ぎゅっ、と剣を抱きしめる音  
163:  
164: セレスモノローグ：何よ、何よ！ いきなり優しくしたりして……！  
165: デュレ：どうしたんです？ なんだか本当に顔が赤いですよ？  
166: セレス：なんでもないっ！  
167: デュレ：本当ですか？  
168: セレスモノローグ：ナンなのよ、これ……なんで赤くなったりしてるのよ！ これじゃ、まるで、  
169: ウィズのこと……。もう、何考えてるの！  
170: ウィズ：本当におかしいぞ。熱でもあるんじゃないのか？ それか、魔力にあてられたか。  
171: セレスモノローグ：これもみんな、ウィズのせいじゃない！ なのに何よ、いきなり、そんな優し  
172: い顔なんかしちゃって……。  
173: デュレ：もしかして、照れてるんですか？  
174: セレス：ちがーうっ！  
175: デュレ：へえ……。  
176: セレスモノローグ：別に、照れてなんか……。そうよ、照れてるなんてこと、あるわけないわよ！  
177: これは……そう、父さんのことを思い出したからよ。そうに決まってる！ 父さんが死んで、一人  
178: ぼっちになって……それから、男の人に優しくされるのなんて、全然なかったから……だから、こ  
179: んなにおかしな感じなのよ！  
180: 久須那：で。再開しても、かまわないのかな？  
181: セレス：も、もちろんだよ！ ウィズ、離れてて！  
182: ウィズ：ああ、がんばれよ。  
183:  
184: SE：遠ざかる足音

185:  
186: セレス：待たせたわ、ねっ！  
187:  
188: SE：剣を打ち合わせる音  
189:  
190: 久須那：ほう、なかなかやるな。  
191:  
192: SE：剣を打ち合わせる音  
193:  
194: セレス：当たり前よっ！ あたしをなんだと思ってるのっ！  
195: 久須那：おしゃべりしていると舌をかむぞ？  
196: セレス：余計なお世話っ！  
197:  
198: SE：剣を弾く音  
199:  
200: 久須那：ふふ。私の手から剣を弾き飛ばすとは……なかなかやるようだ。だが、ツメが甘い……。  
201: セレス：えっ！？  
202: デュレ：セレス！ 下がってください！ 久須那の剣は魔力でできてるんですよ！  
203: セレス：あっ！  
204:  
205: SE：魔法の効果音  
206:  
207: 久須那：あら、この距離からよけるなんて……。なかなかやるな。これならば、あるいは……。  
208: セレス：え、どういこと？  
209: 久須那：まだまだ改善の余地はあるだろうけれど、一応は合格としておこう。  
210: セレス：一応、って……。  
211: 久須那：不服か？  
212: セレス：そりゃそうだよ！  
213: 久須那：だが今のお前たちでは私には勝てない。それはわかるだろう？  
214: セレス：うー……。  
215: シリア：まあまあ、久須那。そんなにいじめてやるなよ。  
216: 久須那：いじているわけではないんだがな。  
217: シリア：協会12天使と呼ばれた天使に、そうそう簡単に勝てるもんか。上出来だよ。  
218: 久須那：ああ。だから合格だと言っている。  
219: デュレ：それなら——私たちの疑問に、答えてもらえるんですね？  
220: 久須那：ある程度ならな。  
221: デュレ：それなら、教えてください。どうして、久須那は絵の中に封じられているんです？  
222: 久須那：話せば長くなる……。だが、今はまだすべてを話すときではないな。  
223: ウィズ：なんだ、せっかく待ってたのに。  
224: セレス：ウィズは何もしてないじゃん！  
225: ウィズ：だから、待ってたっていったんだよ。お疲れさん。  
226:  
227: SE：頭をぼふぼふと叩く音  
228:  
229: セレス：……むう。  
230: デュレ：それなら、質問を変えます。久須那を絵の中に封じたのは、誰なんです？

231: シリア：オレだ……と、言いたいところなんだが。シェイラル司祭だ。  
232: デュレ：シェイラル司祭が……。？  
233: シリア：オレは足りない力を補うために、手を貸しただけだ。だから、封印を解くこともできない  
234: ——  
235: デュレ：でも、シェイラル司祭はとうの昔に亡くなっている。それなら久須那は、ずっと絵の中に  
236: 閉じ込められたまま？  
237: 久須那：そういうわけでも、ない。だがそれもまだ、語るときではないな。  
238: セレス：もう、秘密ばっかりなんだから！  
239: 久須那：そう焦るな。そのうち、すべてわかることだ。どんなものにも、時があるものだよ。  
240: セレス：理屈ではわかるけど……。  
241: 久須那：まずは、やるべきことをやることだ。  
242: デュレ：やるべきこと……。？ なんです、それは？  
243: セレス：もちろん、リベンジ！  
244: 久須那：また、わざわざここまで来て？  
245: セレス：むう……。  
246: デュレ：それなら、発掘の成果いう名目で、絵を学園まで——テレネンセスまで持ち帰りましょう。  
247: セレス：それだ！  
248: 久須那：なるほど。  
249: セレス：反対しないの？  
250: 久須那：私はシルエツトスキル——役目以外のことは、決められない。  
251: セレス：そっか。じゃあ、持って帰るとして……。どうしよう？ これ、すごく大きいよ。  
252: デュレ：空間転移魔法を使えばいいでしょう。  
253: セレス：えーっ！ こないだ、ひどい目にあっただけじゃない！  
254: デュレ：それはちょっと、調整中だったから……。今度は大丈夫ですよ。  
255: セレス：ええー……。あんまり、信用できないなあ。  
256: デュレ：でしたら、セレスは歩いて帰ればいいでしょう？  
257: セレス：何よ、それ！ ひどーいっ！  
258: ウィズ：落ち着けよ、そんな、いがみあってどうするんだよ。  
259: デュレ：余計な口を挟まないでください！  
260: セレス：ウィズには関係ないでしょ！ 黙ってて！  
261: ウィズ：……なんで、オレが怒られるんだ。  
262: シリア：そういうもんさ……。  
263:  
264: //場面転換  
265:  
266: 学園長：これが……。遺跡から発掘された、絵か。  
267: デュレ：はい。しかも、どうやら、ただの絵ではないようです。  
268: 学園長：そのようだ。美術品としての価値も高いだろうね。  
269: デュレ：そういうことでは……。  
270: 学園長：この絵に関して、これ以上の調査は許可できない。  
271: セレス：えーっ！ なんてっ！？  
272: 学園長：知っているだろう、セレス？ 久須那は協会レルシア派はじまって以来のタブーだ。  
273: セレス：そんなの知ってる！ でも、この絵の中には久須那が封じられてるんだよ？ それを知っ  
274: てて、それでもこの絵に触るなって言うの！？  
275: 学園長：そのとおりだ。  
276: セレス：ひどい！

08.07.29  
TBN02改.rtf

277: 学園長：協会のおきてだ。  
278: セレス：おきてなんか知らない！ このままじゃ久須那がかわいそうだ！  
279: 学園長：調査は、認められない。  
280: セレス：学園長のバカ！  
281:  
282: SE：ドアを開けて走り去る音  
283:  
284: 学園長：まったく……落ち着きのない子だ。  
285: デュレ：でも、そこが彼女のいいところです。  
286: 学園長：つまり、デュレ。君も彼女に賛成だと？  
287: デュレ：……私は。  
288: 学園長：無事に学園を卒業したいのなら、おとなしくしておくことだ。  
289: デュレ：それは……脅し、ですか？  
290: 学園長：忠告だよ。  
291: デュレ：……失礼します。  
292:  
293: SE：ドアを開け、ツカツカと去っていく音  
294:  
295: 学園長：……いるんだろう、シリア。  
296: シリア：気づいてたか。  
297: 学園長：いったい、私を誰だと思っているんだね？  
298: シリア：ハゲジジイ？  
299: 学園長：まったく、昔からキミは口が悪いな……。  
300: シリア：正直なたちでね。  
301: 学園長：それで、正直に言って、どうだったね。私の演技は？  
302: シリア：上出来。これで二人は、きっと、あの絵を調査しようとするはず。  
303: 学園長：……本当なら、止めてやりたかった。  
304: シリア：それは無理だ。これは、アイツらにしかできないことなんだ。  
305: 学園長：二人に……神と、精霊たちのご加護がありますように……。  
306:  
307: //場面転換  
308:  
309: SE：足音  
310:  
311: デュレ：……どこ行ったのかしら。セレスったら……。  
312: シリア：セレスを探してるのか？  
313: デュレ：その声は……リボンちゃん？  
314: シリア：ああ。  
315: デュレ：てっきり、セレスと一緒に来たのに……。そうすると、ますます心配ですね。あの子、  
316: 私がいなかったら、何をするか……。  
317: シリア：そうだなあ。アイツは無謀なところもあるし。  
318: デュレ：ええ。だから、早く見つけださないと……。リボンちゃん、ニオイでわかったりはしない  
319: んですか？  
320: シリア：オレは犬じゃないぞ。  
321: デュレ：狼だって嗅覚は同じでしょう？  
322: シリア：まあ、そうだが。今はサスケがセレスのあとを追いかけてるはずだから、当面は危険がな

08.07.29  
TBN02改.rtf

323: いさ。  
324: デュレ：あら、手際がいい……。まるで、何かたくらんでいるみたいなり方ですね？  
325: シリア：察しがいいいな。今から、ちょっと、一緒に来ないか？  
326: デュレ：一緒に？ どこへです？  
327: シリア：テレネンセス教会跡。  
328: デュレ：えっ！？ あそこは、立ち入り禁止でしょう？  
329: シリア：大丈夫だよ。  
330: デュレ：本当ですか？  
331: シリア：ああ。むしろ、お前はあそこに行かなけりやならないんだ。  
332: デュレ：行かなければ……ならない？  
333: シリア：テレネンセス教会跡に行けば、わかるよ。お前はまず、伝説の本当の姿を知る必要がある。  
334: デュレ：本当の姿？ それは、どういう……。  
335: シリア：それは今、説明することじゃない。行くんだ、デュレ。知りたいなら。  
336: デュレ：……はい。  
337:  
338: //場面転換  
339:  
340: SE：風の声  
341:  
342: デュレ：……ここが、テレネンセス教会跡。本当に、何もありません……。  
343: シリア：まあ、1500年も前に破壊されてるからなあ。  
344: デュレ：こんなところに来て、どうしようって言うんです？  
345: シリア：それは行けばわかる。  
346: デュレ：行くなって……？  
347: シリア：まずは入れればいい。  
348: デュレ：入るもなにも、残ってるのなんか、ただのガレキなのに……。  
349:  
350: SE:石の上を歩くような音  
351:  
352: シリア：お前なら入れる。  
353: デュレ：えっ！？  
354: シリア：今からお前が行くのは、ずいぶんと遠いところだ。思い出の地は——玲於那とシェイラル  
355: は、お前を受け入れた。  
356: シリア：それは……どうい……！  
357:  
358: SE：しゅわーっ、という音  
359: SE：ほわほわとワープ音  
360:  
361: デュレ：こ、ここは……。テレネンセス教会跡？ それにしては、新しすぎる……。まるで、破壊さ  
362: れる前を見ているみたい……。  
363: 玲於那：あなたを、待っていました。ずっと。  
364: デュレ：えっ！？ 誰？ どこにいるの？  
365: 玲於那：いつか、真実を求めてここにたどりつくのだと——12の精霊核の伝説に疑問を持ったあ  
366: なたが、ここを訪れるのだということはわかっていました。  
367: デュレ：私の質問に、答えるつもりはない……。？  
368: 玲於那：あなたには、真実を知る勇気はありますか？ 知ってしまえば、あなたはもう、知らない

369: 頃には戻れない。それでも真実を求めますか？  
370: デュレ：なんだっていうの！  
371: シリア：おっと、そんなに怒鳴るなよ。  
372: デュレ：リボンちゃん……？ なんなんですか、ここは。今話しているのは、誰なんですか？  
373: シリア：あれは、玲於那の残したメッセージだ。  
374: デュレ：玲於那の……？  
375: シリア：ほら。そこに、天使の像があるだろう？  
376: デュレ：あ……本当ですね。久須那によく似ている……。  
377: シリア：そりゃあそうさ。玲於那は久須那の実際の姉なんだからな。  
378: デュレ：そんなこと、知っているに決まっているでしょう？  
379: シリア：ああ、悪い。そんな顔でにらむなよ。  
380: 玲於那：あなたは色々なものをなくします。そしてそれは、もう二度と取り戻せない。それでも、  
381: あなたは真実を知りたいと思いますか？  
382: デュレ：あの彫像がしゃべってるんですね？  
383: シリア：ああ。玲於那が、選ばれた者が来たときにメッセージを再生するように残したものだ。  
384: デュレ：それが、私？  
385: シリア：そういうことだ。  
386: 玲於那：もし、あなたが真実を知りたいのなら――エルフの森へ行きなさい。そこで森の精霊、  
387: ジーゼと会うのです。  
388: シリア：どうする？ 玲於那の言うとおりにしたら、お前はもう、これまでのお前じゃなくなる。  
389: セレスもお前も、元通りには戻れなくなる。それでも、知りたいか？  
390: デュレ：当然でしょう？ ここまで来て、それじゃあやめますなんて、言えるわけがないじゃない  
391: ですか。  
392: シリア：まあ、それもそうか。なら、急いで森へ向かうんだ。  
393: デュレ：急いで？ どうしてです？  
394: シリア：時間がない。  
395: デュレ：時間？  
396: シリア：黒い翼の天使の呪いさ。それがもうすぐ、成就してしまう……。  
397: デュレ：いったい、どういうことなんですか？  
398: シリア：それは……。  
399: デュレ：答えて！  
400: シリア：昔、大きな戦いがあった。そのとき、久須那は呪いをかけられたんだ。その呪いはシェイ  
401: ラル司祭の力をもってしても、打ち消すことができなかった。だから、シェイラル司祭は久須那を  
402: 絵の中に封じたんだ。少しでも、呪いの進行を遅らせるためにね。  
403: デュレ：それが、12の精霊核の伝説とどんなかかわりがあるというんです？  
404: シリア：それはおいおいわかってくるさ。イヤでも知ることになる。  
405: デュレ：……つまり、話すつもりはない、ということですね？  
406: シリア：悪いな。事情があるんだ。  
407: デュレ：いえ……こうして道を示してもらえただけでも、十分です。研究なんて、そんなものです  
408: からね。  
409: シリア：そう言ってくれれば、こっちも助かる。  
410: デュレ：いえいえ。それで、私はこれから、エルフの森へ向かえばいいんですね？  
411: シリア：絵を持って、セレスと一緒にな。  
412: デュレ：わかりました。でしたら、まずはセレスを探しにいかないと……。  
413: シリア：言っただろ？ サスケが一緒だって。  
414: デュレ：そうでしたね。でしたら、早く案内してください。

415: シリア：まったく、人使いが荒いなあ……。  
416: デュレ：何か言いましたか？  
417: シリア：いえいえ、なんにも！  
418:  
419: //場面転換  
420:  
421: SE：雑踏のざわめき  
422:  
423: デュレ：……ここに、セレスがいるんですね？  
424: サスケ：ああ、中にいるよ。  
425: シリア：おいサスケ、セレスのこと見てるって言っただろ？  
426: サスケ：大丈夫だって。  
427: シリア：何が、大丈夫なんだ。  
428: サスケ：入ればわかるよ。  
429: デュレ：行きましょう。  
430:  
431: SE：ドアを開ける音  
432: SE：店内のざわめき  
433:  
434: セレス：もー、腹が立つたら！ オバちゃん、お代わり！！  
435: デュレ：……どうやら、元気そうですね。  
436: サスケ：な、言ったろ？ 近くにいたら俺まで食われちゃいそうだったから、外に避難しといたん  
437: だよ。  
438: デュレ：確かに、そんな勢いですね……。  
439:  
440: SE：近づく足音  
441:  
442: デュレ：セレス。  
443: セレス：ん？ デュレ？ あに？  
444: デュレ：口の中にモノを入れたままで話さないでください！  
445: セレス：むぐ……んぐ。はいはい！  
446: デュレ：まったく、行儀が悪いですよ。しかも、こんなに食べて……ブタになっても知りませんか？  
447: セレス：ほっといてよ！ 今はとにかく食べたい気分なんだから！  
448: デュレ：……行きましょう。  
449: セレス：行くなって、どこによ。今はあし食べてるから。食べ終わるまでどこにも行かないんだか  
450: らね！  
451: デュレ：食べ終わってからでかまいませんよ。どうせ、行ったら夜中になりますから。  
452: セレス：夜中？ 何の話？  
453: デュレ：……久須那の絵を、盗み出しに行きます。つきあってくれますよね？  
454: セレス：えっ！？ 本気！？  
455: デュレ：冗談でこんなこと言うわけがないでしょう？  
456: セレス：でも、バレたらどうするの？ 多分、退学になるよ？  
457: デュレ：バレないようにやればいいんです。  
458: セレス：そううまく行くのかな……。  
459: デュレ：無謀はあなたの専売特許だったように思いますけど？  
460: セレス：……まあね。あたしも、久須那をあのまま放っておけないって、思ってたけど……でも、

08.07.29  
TBN02改.rtf

461: 本当にいいの？  
462: デュレ：望むところですよ。  
463: セレス：よし……そうと決まったら、まずは腹ごしらえ！ デュレも座って座って！  
464: デュレ：え？ ええ……。  
465:  
466: SE：ガタッと音を立てつつイスに座る  
467:  
468: セレス：おばちゃん！ 今日のオススメ追加で持ってきてー！  
469: サスケ：……大丈夫かな、あれ。  
470: シリア：……まあ……大丈夫だろ。多分……。  
471:  
472: //場面転換  
473:  
474: SE：石畳を走る足音  
475:  
476: セレス：ふう、まさかこんな、泥棒の真似事みたいなことやるなんて考えたことなかったなあ……。  
477: ウィズ：オレだってそうだよ。  
478: セレス：ウィズは元々、泥棒みたいなことしてたじゃん。  
479: ウィズ：それは……でもアレには事情があっただな。  
480: デュレ：あまり騒がないでください！ 守衛さんに気づかれます！  
481: セレス：はあ〜い。でも、そんな、怒らなくたっていいじゃない？  
482: デュレ：何言ってるんですか。今から、何をしようとしてるのかわかってるんですか？  
483: セレス：もちろん、わかっているよ。久須那の絵を盗み出す！  
484: デュレ：そういうことは大声で言わない。  
485: セレス：ちえーっ。  
486: ウィズ：はは、拗ねるなよ。  
487: デュレ：ウィズ、あなたもです。  
488: ウィズ：へいへい……。  
489: デュレ：それでは、ここから二手に分かれましょう。ウィズ、退路の確保をお願いしますね。  
490: ウィズ：ああ、任せとけ。  
491: セレス：じゃ、行ってくるねー。  
492:  
493: SE：二人の走っていく足音  
494:  
495: デュレ：……さて。ここですね。  
496: セレス：何もこんな、裏口から堂々と入らなくたって……窓とかから入れればいいじゃん。  
497: デュレ：何を言っているんですか。窓なんか、ムリに開けたりしたら一発でバレるでしょう？  
498: セレス：ドアだって、壊したら一緒だよ。  
499: デュレ：壊してどうするんです。  
500: セレス：じゃ、どうするの？  
501: デュレ：こういうの、得意でしょう？  
502: セレス：あー、あたしに開けるっていうの？  
503: デュレ：ほかに誰がいるんです？  
504: セレス：そんな、泥棒みたいなこと……。  
505: デュレ：できますでしょう？  
506: セレス：まあ、得意だけど。

08.07.29  
TBN02改.rtf

507: デュレ：でしよう？ がんばってください。  
508: セレス：まったく、人使い荒いんだからあ……。  
509:  
510: SE：カチャカチャと金属音  
511: SE：カチャリ、と掛け金の外れる音  
512:  
513: セレス：よしっ！  
514: デュレ：開いたようですね。  
515:  
516: SE：ドアを開ける音  
517: SE：中へ入っていく足音  
518:  
519: セレス：あ！ ちょっと、感謝の言葉とかはー！？  
520: デュレ：バカなこと言っていないで、早く行きますよ。  
521: セレス：はーい……。  
522:  
523: SE：続いて入っていく足音  
524:  
525: デュレ：……セレス。止まって。  
526: セレス：ん？ どしたの？  
527: デュレ：結界がはってあるようです。  
528: セレス：結界？ うーん……そういうふうには、見えないけどな。  
529: デュレ：見えなくとも、あるんです。うかつに動くと、ひどい目にあいますよ。  
530: セレス：そっか……じゃあ、どうしよう？ 結界を解除する方法とか、ないの？  
531: デュレ：解除なんかしたら、それこそ、侵入者がいると知らせるようなものです。  
532: セレス：だったら、どうするの？ 先に進めないよ。  
533: デュレ：結界がはられていないところがあります。  
534: セレス：……なんか、震っばいね。  
535: デュレ：その可能性が高いでしょうね。どうします？  
536: セレス：もちろん、行くよ！ でないと、何も始まらないだし。  
537: デュレ：気をつけていきましょう。  
538:  
539: SE：足音を忍ばせながら歩く音  
540:  
541: デュレ：……学園長室。  
542: セレス：こんなとこに誘い出して、どうするつもりかな？  
543: デュレ：どうでしょうね。久須那の絵があるとしたら、ここよりはもっと別の場所のような気がします……  
544: セレス：じゃあ、どうする？ バレないように結界を解除する方法とか、すり抜ける方法とかでも  
545: 考えてみる？  
546: デュレ：いえ……入ってみましょう。  
547: セレス：えっ？ 入るの？  
548: デュレ：ここだけ、あえて結界をはっていないということは、ここに入れということでしょうから。  
549: セレス：でも、震かもかもしれないだよ？  
550: デュレ：むしろ、震でしょうね。  
551: セレス：だよええ。ここまで警備の一人もいないなんて、やっぱりおかしいよね。

08.07.29  
TBN02改.rtf

553: デュレ：でもここ以外、道はなさそうですからね。  
554: セレス：うん、そうだよね。よし、入ろう！  
555:  
556: SE：ドアを開ける音  
557:  
558: 久須那：よく来たな。  
559: セレス：久須那！？  
560: 久須那：待ちくたびれたぞ？  
561: デュレ：どういことですか？  
562: 久須那：そのままの意味だ。私はお前たちを待っていたんだよ。  
563:  
564: SE：動物の足音  
565:  
566: シリア：お前たちには、久須那の絵を無事に盗み出してもらう必要があるからな。  
567: セレス：な、なんでリボンちゃんがここにいるの！  
568: シリア：ハゲジジイの代わりにな。  
569: デュレ：学園長の……？ つまり、これは学園長も承知している、ということですか？  
570: 久須那：そういうことだ。  
571: デュレ：でしたら、なぜ、昼間あんなことを言ったんです？  
572: 久須那：目を欺く必要があった。  
573: デュレ：目を？  
574: シリア：リテール協会さ。レルシア派は、久須那の絵を調査することに対して、よしとはしないだろうからな。  
575: デュレ：つまり、すべては手の上だった……と、ということですか？  
577: シリア：そう怒るなよ。仕方なかったんだ。  
578: セレス：仕方ないって、何がよ？  
579: 久須那：協会の承認を得るのは、不可能ではないだろう。が、時間がかかる。それでは遅い。  
580: セレス：遅い？ あれ、なんだろう、どこかでそんなことを聞いた気がする……。  
581: 久須那：そう。時が、迫っている。  
582: デュレ：どういことですか？  
583: 久須那：それは……。  
584: シリア：久須那。まだ……。  
585: 久須那：わかっている。セレス、デュレ。まだそれは話せない。だが、どうする？ 今ならまだ、  
586: ざりざり降りられるぞ。  
587: セレス：降りるわけじゃないじゃん！  
588: デュレ：ここまで来て、降りるなんてありえませんね。  
589: 久須那：……そうか。ありがとう。  
590: シリア：よーし、そうと決まったら、早速エルフの森に行こうか？  
591: セレス：えっ、いくって、今から？  
592: シリア：ああ、今から。  
593: セレス：でも、どうやって行くの？ 久須那の絵を持って、今からエルフの森まで行ったら、どんなに急ぎだっって朝になっちゃう。  
595: デュレ：私の空間転移魔法がありますよ。  
596: セレス：えーっ、やだよ、あれ！ なんか気持ち悪くなるんだもん！  
597: 久須那：心配するな。エルフの森までなら、私の力で送ってやれる。少し時間はかかるが、安定は  
598: しているぞ。

08.07.29  
TBN02改.rtf

599: セレス：わ、よかったー！ デュレの転移魔法、乱暴なんだもん！  
600: デュレ：……そういうことを言っていると、次からはやりませんよ？  
601: セレス：えー。そんな、ケチなこと言わないで！ ね？  
602: デュレ：ふん！  
603: シリア：まあまあ。ケンカするなよ。  
604: デュレ：セレスが悪いんです。  
605: セレス：えー、あたしのせいなの？  
606: 久須那：わかった、わかった。とりあえず、行くぞ？  
607: セレス：うん！  
608: デュレ：……はい。  
609: 久須那：いざ、エルフの森へ……。  
610:  
611: SE：魔法っぽい効果音